

第二次能美市総合計画 第2回基本構想策定審議会

議事概要

日時：平成28年7月29日（金）10：00～12：00

場所：辰口福祉会館 多目的ホール

－ 議事次第 －

1. 開会
2. 市長挨拶・会長挨拶
3. 議論の進め方の説明・資料確認
4. 審議事項
基本計画（構成案）について
5. 閉会

<会議風景>



■議事概要

【第1章：暮らし・魅力分野】

◆委員

- ・たくさんの施策が掲げられている中で、ウエイトづけがほしい。すべて同じウエイトで行うことは非効率なので、優先順位をつけて進めることを検討していただきたい。

◆委員

- ・今後の人口増加を見込むのであれば、ソトへの発信を強めていく必要があると思う。「地域情報の発信・PR」については、情報を発信するだけではなく、足を運んでPR活動をするということを盛り込めればよい。広報や新聞、ラジオも県内にとどまっており、ホームページやSNSも「能美」を検索しなければ目に触れないと思う。ということは、「能美」の知名度を上げなければいけないし、「石川県に能美市あり」ということを伝えていかなければならないと思う。フェイス・トゥ・フェイスという言葉のとおり、外に足を運んで、顔と顔をあわせてPR活動を行うということを盛り込んでいただければと思う。

◆委員

- ・住みよさランキングでは上位であるにもかかわらず、ブランド力調査では下位に甘んじている。このギャップは何なのかと感じている。もっと努力すれば知名度を上げられる可能性は秘めていると思っている。
- ・どうやって上げていくかとなると難しいが、例えば石川県は知らないけど金沢は知っているという人は多い。同様に、能美市のほうが石川県よりも先に思い浮かぶようなことが大事である。市民の皆さんが自分たちの地域に誇りを持って住み続けられるよう、能美市の知名度を上げていく必要があると思う。

◆委員

- ・住みよさランキングは“無いと満足できないものを調べる不満足度調査”、ブランド力調査は“有ると満足できるものを調べる満足度調査”だと思っている。能美市は結局、“有ると満足できるもの”が少ないということであり、それが観光につながらない要因だと思っている。
- ・市内には良いスポットがたくさんあるが、長滝は水質を改善しないと観光資源にはなりにくい。また、古墳はあるがバラバラであり、高い所から遠くを眺めるポイントがあれば良い。高い所から見下ろしたとき、水田に水が張られていて稲が植えられている風景などは写真を撮りたくなるが、高圧線や鉄柱があり無粋である。とても良い資源があるので、もう少し配慮すると化けるのではないかなと思う。

◆委員

- ・能美市は生活環境としてはしっかりしており、それが全国的な評価にもつながっている。一方で、能美市出身だが「観光」という言葉はこれまで聞いたことがなかった。外から観光客が足を運んでくれる市になれば良いと思う。
- ・しかし、観光客はプラスαの魅力が見えてこない足を運ばない。九谷焼などの魅力的な資源をメイクアップして整理・発信していくことが重要になると思う。景観面を

含む生活環境全体が市民のアイデンティティ（特徴）や誇りにつながるようにやっていくことが次のステップではないかと思う。

◆委員

- ・「国内外の交流の推進」に記載されている「市民の国際理解を深めることが今後の課題」については、10～20年後を考えた場合、今の若者が能美市に住みながら、当たり前のように外国人のことを隣人や友人として捉えられる感覚を身に付けていかなければならないと思う。
- ・その文章の中で「国際交流担当」は何を指しているのか不明確であり、今後の国際交流をどのようにやっていくのかをより具体的に記載していただきたい。先端大の留学生への語学支援や交流など、国際交流団体はたくさん活動しており、市民もたくさん参加している。「国際交流担当」だけでなく、様々な人が関わっていくことが大切であると思う。

◆委員

- ・アジア太平洋大学（大分県）では、留学生が市民生活に溶け込んでいるようである。先端大は40%以上が留学生であり、その方々を何とか市民生活の中に溶け込ませられないか。ご指摘のとおり、留学生や地域の人々が、日常生活の中でカタコトの言葉のやりとりでも暮らしていける環境になれば良いと思う。

【第2章：健康・福祉分野】

◆委員

- ・市の医療・介護・福祉に関わる施策がわかりやすく示されていて良いと思う。細かな部分は後ほど担当の方とお話させていただきたい。
- ・「地域医療の推進」について、地域医療構想と市の医療提供体制に関しては、地域医療構想に基づく見直しを県は求めているはずなので、整合性を取りながら構築するという形で良いと思う。
- ・市立病院の改革プランの中に、経営の効率化と地域包括ケアにおける役割の強化とあるが、すでに市内では医師会やメモリーケアネットワーク能美、かけはしネットワーク能美などが参画されているので、「地域包括ケアにおける役割の強化と連携の推進」という表現にしてはどうかと思う。
- ・この分野で「医師会との連携」という言葉が書かれていないので、「医師会との連携」についてもぜひ記載していただきたい。
- ・「がん検診」や予防に関する項目が重要施策に入っていない。「健康づくりの推進」の中では、糖尿病などのいわゆる血管病については記載されているが、同じ生活習慣病である「がん」については目標の中にはっきり記載されていないように思う。がんも糖尿病も生活習慣病が原因となっていることが多いので、予防する方法は禁煙も含めてほぼ一緒である。がんについてももう少し書かれた方がバランスが良いと感じた。
- ・「高齢者福祉の充実」の中で「多様な住宅支援の充実」とあるが、中山間地のところをどうされるのか気になった。また、「認知症対策の充実」について、「住み慣れた地域

で自分らしく暮らし続けることを目指します」とあるが、社会参加のことを加える必要があると思う。今問題となっているのは認知症の方の社会参加であり、子育てや料理など認知症の方でもできることはある。介護保険の中でも求められているので、もう少し記載されたほうが良いと思う。

- ・「公的保険制度の運営」について、2018 年度に都道府県に移管される予定であり、記載がなければ追加しておく必要がある。

◆委員

- ・健診の話になるが、平均寿命は延びているが健康寿命をいかに延ばしていくかが地域にとって重要である。他市の国保・後期高齢者データベースを分析した結果、健診をしっかりと受けている人のほうが個人にかかる医療費が少ない傾向にある。「健診の充実」については重要だが、どのように進めるのかを踏み込んで記載していただければ良いと思う。
- ・歯医者さんともいろいろと相談する中で、歯周病などの歯の病気が全体的な健康に悪影響を及ぼす可能性が高いということを耳にしている。歯の健康についても記載していただければよいと思う。

◆委員

- ・第 1 章に比べて、第 2 章のほうが全般的に施策の展開方針、主要施策、目標指標のつながりが悪いように感じる。目標指標に挙げている項目と重要施策をもう少しリンクさせていく必要があると思う。

◆委員

- ・「少子化対策・子育て支援の充実」において、「サポート体制を整えます」という記述があり、目標指標として「ファミリーサポートセンターの依頼会員数」が掲げられているが、サポート体制を整えていくためには依頼会員ではなく協力会員を増やしていく必要があると思うので確認をお願いしたい。

【第 3 章：教育・文化・スポーツ分野】

◆委員

- ・「学校教育の充実」について、率直な印象としては、10 歳の子どもが 20 歳になるという 10 年間の基本計画となるため、もっと積極性を出してもよいのではないかと感じている。
- ・石川県の教育振興基本計画という今年度から 5 年間の計画が策定されており、その中には「イノベーションを担う人材の育成」や「グローバル人材の育成」ということが大きく取り上げられており、今後 5 年間の石川県の目標となっている。
- ・第 1 章の議論を聞いていても、先端大があるということで外国人とふれあう機会が非常に多い中、グローバルに国際的な視野を獲得する子どもたちを育てるという点では、能美市はとても良い環境にすでにあるのではないかと思います。地元企業も非常に多いので、イノベーションという新しい発想でクリエイティブなことをやっていける人材を、今の子どもたちの 10 年後の姿として目標を立てていくということを、もう少し教育の

現場に求めているよりもよいのではないかと思う。

- ・しかし、学校現場では教職員が大量退職して若手教員が増加していることから、先生方を孤立させないような施策も必要で、子どもたちを地域で育ててもらい、学校と地域が一緒になって、イノベーションを担う人材やグローバル人材を育てていけるような施策を10年の計画の中に盛り込んでいければより良くなると思う。

◆委員

- ・中学校が行っている国際交流のことや、先端大を定期的に使っていただくことなどをもう少し表現してもらえればよいと思う。

◆委員

- ・たくましさや創造性を育てるときに、もっと子どもが自分で考えて、遊んで、人と関わる時間を確保していかないと、弱い人間が育っていくのではないかと心配している。
- ・主要施策「児童生徒が安心して過ごせる学校環境づくり」というところに「学校評価の充実」とあるが、これは何を示しているのか。

(学校教育課長)

- ・学校評議員や地域の方々に、学校の教育活動自体を評価していただくシステムである。コミュニティスクールの推進にあたって、学校評議員のような方々に学校教育の取り組みを評価していただくことを示している。

◆委員

- ・学校教育を応援する方を増やす取り組みという意味で捉えている。学校や先生を締め付けるような現場にならないよう、能美市独自の取り組みができないか。せっかく良い環境があつて、子どもたちが自ら遊んだり学んだりする場所があるのに、結論の早さや結果だけが求められるような現場にならないようにする方法を考えていただきたい。能美市だけではできないことかもしれないが、根本的な問題について考え、大らかな学校教育環境をつくってほしい。

◆委員

- ・一方で、先生方が子どものためになる教育ができているか、十分な授業スキルを持っているかということをチェックすることも重要である。モンスターペアレントは困るが、保護者もある程度関与しながら、各学校がどのような状況にあるのかを正確に把握していくことが大切である。
- ・「ゆとり教育の敗北」というのが取り沙汰されている。「ゆとり教育の敗北」は、ゆとり教育の時間をどのように使うべきかという先生方への教育が十分ではなかったと感じている。また、家庭教育や幼児教育との相関も重要であり、学校でどんな教育をすべきか、家庭でどんな教育をすべきかをもっと吟味しながら話ができる機会が必要だと思う。

◆委員

- ・地域福祉においては、町会・町内会単位で支えあうということが基本となっている。「生涯学習の推進」でも地域単位での公民館活動等を通じて地域の活性化を図っていく方針が示されているが、例えば町会の集会所など、高齢者や障がいのある人、子育て中

のお母さん方といった誰もが集える施設になっているのかという疑問がある。身近なところに誰もが集まり支え合える、あるいは生涯学習活動ができる拠点が必要ではないか。

◆委員

- ・過疎地域の問題とセットで考えていく必要がある。人数の少ない地域ではどうしても高齢者が増えていくことから、いかにうまく支えていくべきかを考えていかなければならない。

◆委員

- ・「芸術・文化の振興」について。先ほど、第1章のところでもっと外部の方々に興味を持ってもらうべきとか、基本的な生活環境に加えてステップアップしていくべきという話をした。この「芸術・文化の振興」についても基本的に市民の方々が対象となっているが、主要施策や目標指標の内容を精査し、10年間で取り組むべき内容を盛り込んでほしい。また、重点施策に一つも印がついていないことから、もう少しこのあたりにも注力すべきかと思う。

【第4章：産業・雇用分野】

◆委員

- ・商工会の会員数は毎月減少しており、後継者不足や高齢化により企業数も減少している。国に対しては「中小企業振興基本条例」を法制化し、県や白山市、加賀市では、すでに条例が制定されていることから、能美市独自のカラーを活かした条例化を進めていただきたい。
- ・商工会の会員数は減少傾向だが、事業を起こしたいという人は多く、商工会と行政が連携しながら相談に対応している。能美市は創業環境が良く、特に辰口地区での創業希望者が多い。そのような状況の中で、「創業者の支援体制の充実」という施策が掲げられていることはとても喜ばしい。一方、「創業者への補助金制度の充実」について、日本政策投資銀行や地元の銀行各社も創業者支援をしたいということで商工会に来ているが、内容がほとんど同じである。各社の独自性を発揮してもらい、もっと地元のカラーを出してもらいたい。

◆委員

- ・「商業の振興」で空き店舗が増加しているとのことだが、目標指標として「空き店舗を活用した起業数」が現況値1に対し目標値2となっている。これは空き店舗が実際はそれほど多くないということなのか、起業はかなり厳しい状況なのか教えてほしい。
- ・「産学官金連携・創業者支援の推進」について、目標指標の「市内企業とJAISTとの産学連携件数」が現況値・目標値ともに8となっているが、これはどういうことか。

（商工課長）

- ・「空き店舗を活用した起業数」については、空き店舗の所有者・管理者との調整など難しい面もあることから、まずはスタート時の目標として記載の数値としている。住宅となる場合や新たな店舗として起業する場合もある。まずはこの数値で

スタートしたい。

- ・「市内企業と JAIST との産学連携件数」については、先端大の学生が市内企業の職場を体験するなど、合併当初は様々な取り組みが行われていたが、近年は少ない傾向にある。市内の企業の理解と交流が不可欠であることから、商工会とも連携し、まずは年間 8 件を目標に進めていきたい。

◆委員

- ・「商業の振興」の現状・課題について、「高齢化に伴う買い物弱者の増加」という項目が示されているが、のみ商業協同組合の女性部会が行っている中山間地域などでの移動販売（月 2 回実施）のことを具体的に記載してほしい。また、10 年後の超高齢化を見据えた施策についても具体的に示していただきたい。
- ・のみ商業協同組合が市と連携して取り組んでいる安全・安心の実現に向けた「ポイントカードシステム」について、実際にやっている内容についてもう少し盛り込んでいただきたい。
- ・課題としては、新聞報道された通り、市外へ 300 億円の消費が流れているということである。今後さらに高齢化が進んで買い物弱者が増える中、能美市内で買い物をしてもらえる方法を考えていかなければならない。
- ・商業の振興の主要施策に「商店街の活性化の推進」があるが、J R 能美根上駅前に商店がほとんどない。駅は新しくなったが商店がないということで、「能美根上駅周辺の活性化」について具体的に掲載してはどうか。そういう意味では、「空き店舗等を活用した起業数」の目標値も低すぎると思う。せめて 10 件程度にしてはどうかと思う。

◆委員

- ・商店街の取り扱いについては非常に難しく、全国的にも解決策は見えていない。一方で、まちの中心部の活性化や賑わいの維持・創出について、旧商店街が果たす役割は大きいと思う。活性化していけるような方策を検討していってもらいたい。

◆委員

- ・「産学官金連携・創業者支援の推進」について、公民連携や P P P、P F I の事業についても検討すべきではないか。合併以降も各種施設を有効活用してきていると思うが、将来的に施設の利用ニーズが減っていくことも想定される。施設の利活用や再整備について、行政だけで対応していく時代ではないことから、地域の民間活力の導入や金融機関からの支援などもうまく活用しながら、P P P や P F I の事業を入れ込んでいった方が良いのではないかと思います。

◆委員

- ・J R 能美根上駅前の活性化についてはあまり書かれていない。ことあるごとに能美根上駅の有効活用・活性化ということをお願いしてきているので、そこはもっと意識して記載していただきたい。
- ・産学官金の連携については、市内の産業構造を考えると、まずは産と官で既存の中小企業に対する支援をどれだけ手厚くできるか、それを学がどれだけサポートできるかということになると思う。小規模事業者が学との連携だけでいきなり新製品を開発す

るというのは負担が大きい。そのあたりの筋道の付け方を議論させていただきたい。

- ・商業に関しては、こういった地域の商店・商店街をいかに活性化していくかという具体的な施策・方針を打ち出していきたい。

◆委員

- ・「農業・農村の振興」の中で、農協に関する記述が入っていない。農協も入れて農業の振興を図っていくべきと考える。

【第5章：居住環境分野】

◆委員

- ・「道路の維持・整備」に関して、高度成長期に整備された道路や橋の維持管理については今後さらに重要になってくると思われる。また、「道路里親制度の推進」に関して、道路は地域のものという意識を伝えていくことで、清掃などの維持管理を地元で実施してもらえよう推進していければよいと思う。
- ・「公共交通の充実」については非常に難しい問題であり、どれくらいの予算を使うかに尽きる。現在、コミュニティバスは2時間に1本程度と不便な状況である。1億円弱（7,000～8,000万円）をランニングコストとして使用しているが、これを倍にすれば1時間に1本のバスを走らせることができる。せめて1時間に1本はないと公共交通としては利用できない。これから高齢者も増えることから、高齢者の免許返納によるコミュニティバス利用者数の増加をあわせて考えると、+1億円を投資することについても検討してもよいのではないか。
- ・「消防・防災体制の強化」については非常に大事である。石川県は幸いなことに大規模災害は少ないが、発生したときのことを考えて自主防災組織をいかにつくって活動を継続していくかが大切である。自主防災組織をつくるためには地域コミュニティの関係が重要であり、これは福祉や介護の見守りにも関連してくる。ぜひ自主防災組織設置率100%を目指してほしい。

◆委員

- ・「消防・防災体制の強化」について、自主防災組織は74町会のうち59町会で設置されているが、防災訓練を毎年実施している自主防災組織が28町会と少ないのが課題である。このことから、防災士が集まって出前講座を実施する予定としている。能美市の防災士は現在110名となっている。活動が盛んな町会とそうでないところの差が大きく、いざ災害が起こった時に今のままでは機能しない。防災士で4チームを結成し、9月～来年3月にかけて出前講座を実施していきたいと思う。

◆委員

- ・「消防・防災体制の強化」について、災害医療や介護について記載が無い。個別に連携されているのは承知しているので、できれば記載を追加していただきたい。昨年、鬼怒川が決壊した際に、医療や介護をどうするかという問題が起こったため、少し記載された方がよいと思う。

- ・「道路の維持・整備」の中で、今後、自動車の交通量が減っていくことが想定されるが、交通量が減っても危険で信号が必要な場所では「ラウンドアバウト」を整備すればよいのではないかと思います。

※【第 6 章：歴史・自然分野】、【第 7 章：行財政分野】については、時間の都合上、審議会当日の意見はなかった。

【全体について】

◆委員

- ・根上文化会館、寺井福祉会館、辰口福祉会館は非常によく使われている。根上文化会館については教育委員会が入っていてなかなか部屋に空きがない状況と聞いている。
- ・10 年後、20 年後の能美市のまちづくりを考える中で、能美市の本庁が本当にこの場所で良いのかということぜひご検討いただきたい。市役所の近くにうどん屋や居酒屋などのお店を作ろうとしても開発可能な場所がない状況であり、総合計画の中でぜひ考えていただければと思う。

◆委員

- ・ずいぶん企業誘致が進んでいるが、誘致した企業で働く方々が能美市に定住していない。企業で働く方々が納得して気持ち良く定住できるような場所づくりも考えていく必要がある。勤務地は、先端大などの学生が就職する際にもターゲットとなることから、企業としての立地環境だけでなく、その企業で働く方々が定住できるまちづくりを進めることが、いろんな意味で市の活性化につながると思う。そのときに大きな魅力となるのが J R 駅が存在だと思うので、市の中心地をどこに置くべきかということも含めて「未来の能美市はどうあるべきか」というビジョンを考えて盛り込んでいただきたい。
- ・先日、訪韓した際に、テジョンという人口 150 万人の都市から本気で連携して何かやりたいというお話もあった。それだけ能美市は魅力的に映っているということである。そういったことを実現していくためにも、能美市の中のパワーを十分に高めていただく必要がある。

閉会にあたり

◆市長

- ・市庁舎の問題については、合併当初に議論を重ね、当面は辰口庁舎を活用するというにしたが、教育委員会は根上文化会館、産業建設部や健康推進課は旧寺井庁舎にあるということで、正直なところ必要十分な行政機能を果たしていない面があり、大きな課題である。能美根上駅についてもせっかく立派な駅となったが寂しい状況である。これらを総合勘案し、20 年先、30 年先を見据えたまちのへそとして、どのようなものを構築していけばよいかということ、市民の皆さんとともに共通課題として議

論していく必要がある。

- ・最後に大きなご提言をいただき、非常に有意義な会であったと認識している。これは今後の能美市を背負っていく若い世代の人たちにとっても大きな課題であることから、後世のためにも、引き続き委員の皆様からご示唆をいただければと思う。ありがとうございました。

－以上－